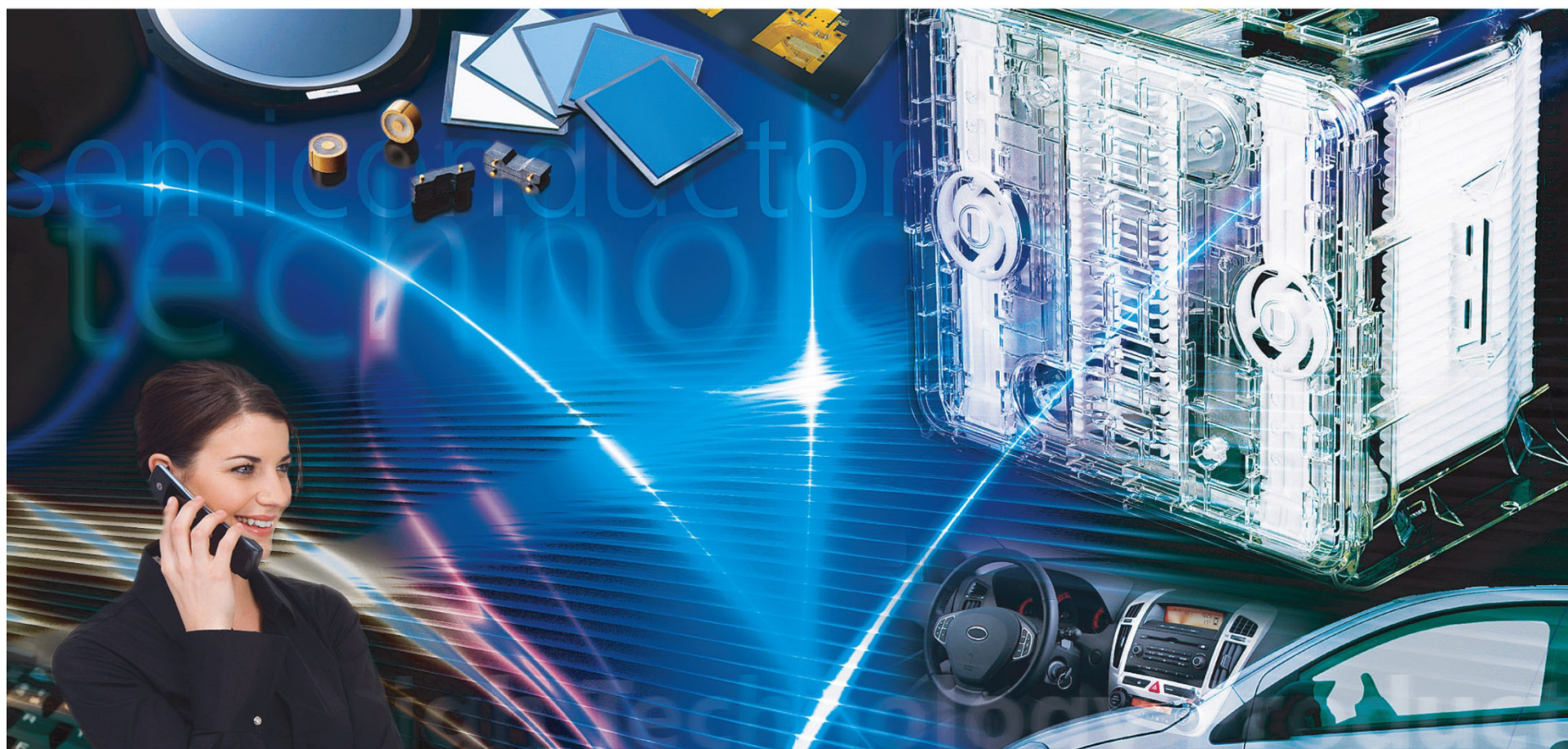


# 電子デバイス検査用「MT」シリーズの紹介 **ShinEtsu**

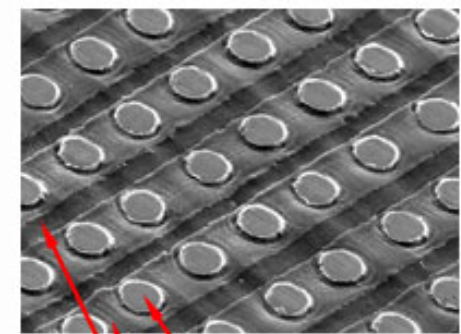
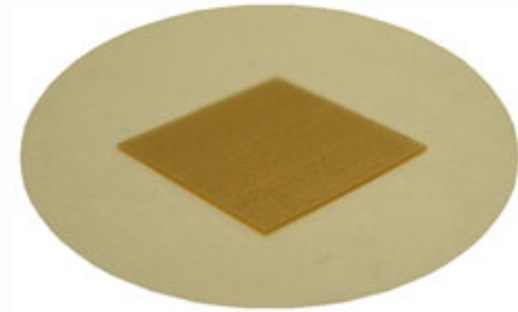
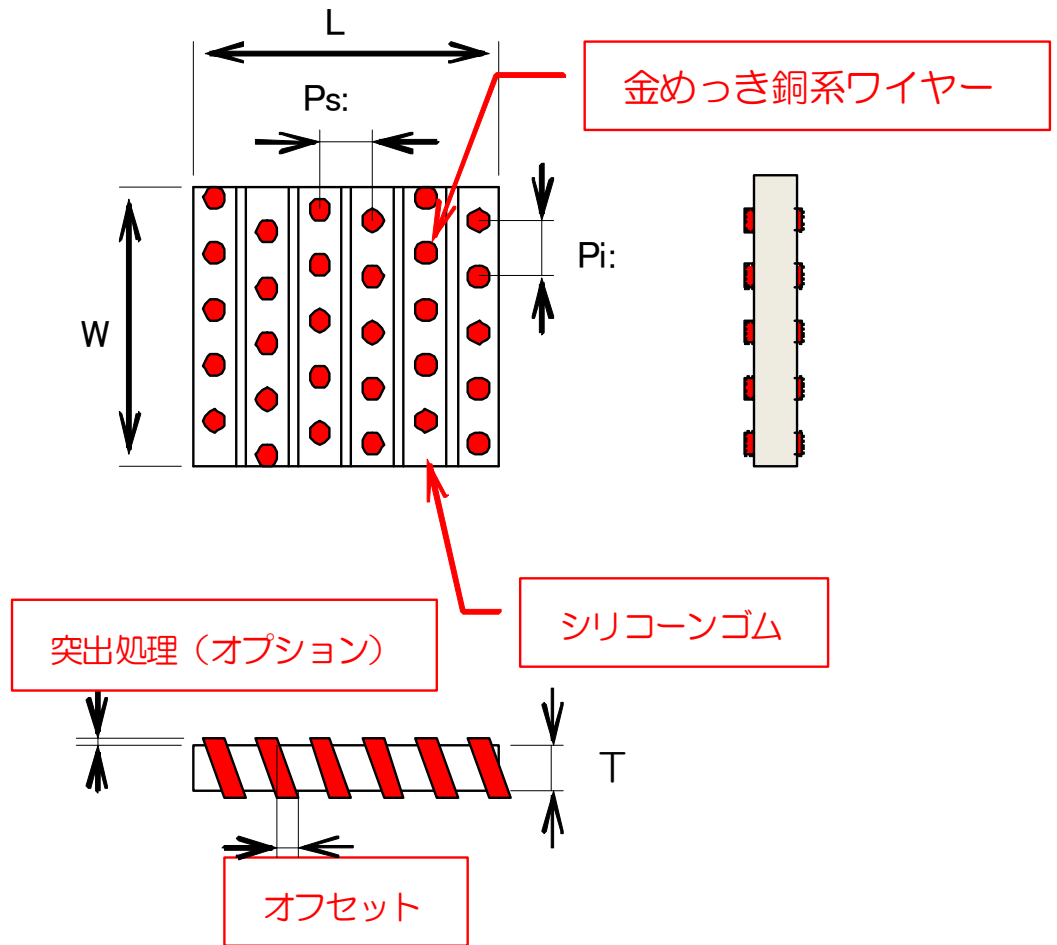
2022/1/7 Ver. 5.1

信越ポリマー株式会社  
営業本部営業第一部



CONFIDENTIAL

# 製品構成



金めっき銅系ワイヤー  
金属線突出処理品

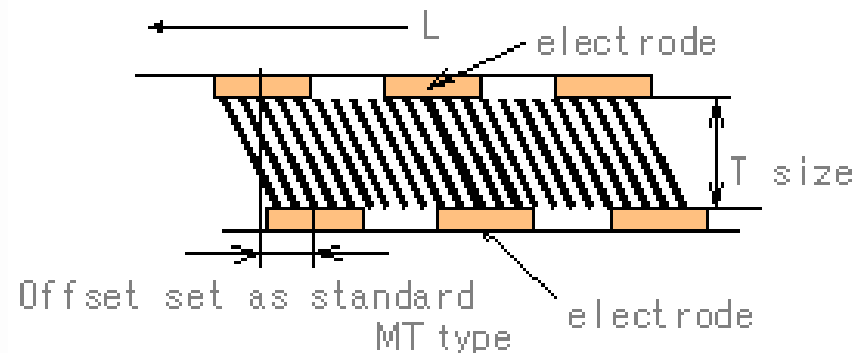
シリコンゴム

# MTシリーズ概要

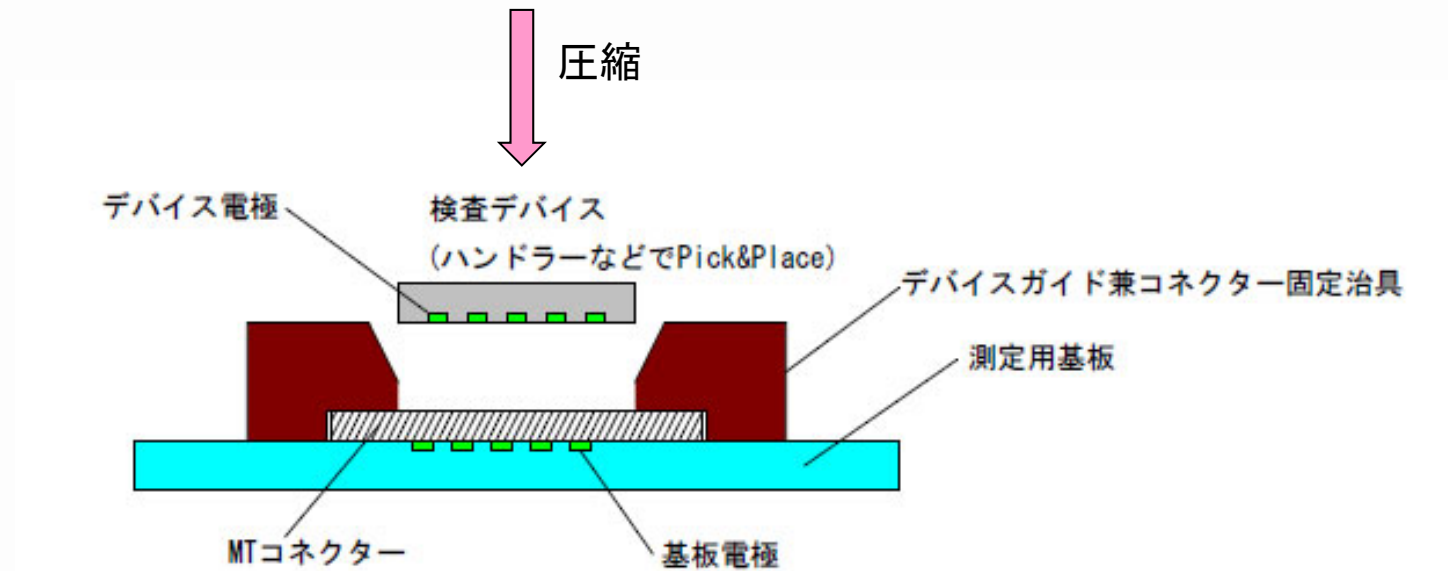
## 特徴

- ・ワイヤーを傾斜させることにより”高い繰り返し特性”と優れた“高周波特性”を両立
- ・最も薄い仕様にて、はんだ実装に近い導通距離となる0.15mmを実現
- ・ランダム接続(下図)により、コネクタに対する高精度の位置決めが不要
- ・様々な部品電極に対応する豊富な製品ピッチをご用意
- ・ワイヤー突出処理も可能。低荷重での検査が必要な場合に対応
- ・QFN、LGA、BGAなどの各種パッケージに対応

## ランダム接続



# MTシリーズ検査方法



## 検査方法

- 1) 測定用基板にデバイスガイド兼コネクタ固定治具を設置する
- 2) MT製品を治具にセットする(この際、MT製品の位置合わせは不要)
- 3) ハンドラーなどで検査デバイスをMT製品の上に乗せ、圧縮し検査を実施する
- 4) 検査デバイスをピックアップして検査終了



# 他方式との比較

	MT製品	プローブピン(ポゴピン)
製品外観・構造	<p>シリコンゴム 金属細線</p>	<p>プランジャー スプリング バレル プランジャー</p>
接続方式	ランダム接続 (複数の金属線(導体)で1電極間を接続)	Pin to Pin接続 (1本のプローブピン(導体)で1電極間を接続)
アライメント	MT製品は評価系基板電極にアライメントする必要がありません。 (基板電極上にセットするだけです。)	プローブピンは評価系基板電極にアライメントする必要があります。
電気特性	良好な電気特性が得られます。 導通経路が短いので高周波デバイスに対応可能です。	導通経路が比較的に長いため、一般的には高周波デバイスには不向きです。
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属線は一方方向に傾斜しているため必要に応じて基板電極に対してデバイスをオフセットする必要があります。</li> <li>耐久性については検査デバイスの仕様や使用条件により変化しますのでお客様にてご評価下さい。</li> </ul> <p>金属細線</p>	<p>【MT製品の使用例】</p> <p>検査デバイス デバイスガイド兼コネクタ-押さえ 評価系基板 電極 MTコネクタ-</p>

# MTシリーズ サイズラインアップ



## サイズ

タイプ名	サイズ (mm)							ワイヤー突出処理
	ワイヤー線径	Pi	Ps	L	W	T	主材シリコン硬度	
MT	0.04	0.1	0.1	5~50	5~50	0.5, 1.0, 2.0	30°H	オプション : MT-E
MT-2X	0.03	0.075	0.075					オプション : MT-2X-E
MT-4X	0.023	0.05	0.05					オプション : MT-4X-E
MT-6X	0.017	0.032	0.05					オプション : MT-6X-E
MT-T-E	0.04	0.1	0.1			0.15, 0.25	70°H	標準
MT-T-2X-E	0.03	0.075	0.075					標準
MT-T-4X-E	0.023	0.05	0.05					標準
MT-T-6X-E	0.017	0.032	0.05					標準

※ワイヤーのオフセット値はT寸法の1/2です。

※ワイヤー線端部に金めっきを施す事も可能です。(-6Xシリーズを除く)